新聞定価 月ぎめ 本体価格2,719円(消費税込み2,937円)、1部売り(税込み)130円 第3種郵便物認可

「不要な増量で副作用頻発」

認知症薬「適量処方を」

規定に反発 実態調査へ

医師ら団体設立

認知症の薬の使用規定により不必要な増量を強いられ、患者が怒りっぽくなるなどの副作用が頻発しているとして、高齢者医療に携わる医師らが適量処方を推進する団体を26日までに設立した。全国の医師や患者家族に呼び掛け、副作用の実態調査に乗り出す。

高齢化社会で認知症の増加が見込まれる中、投薬治療をめぐる問題提起がされた形だ。

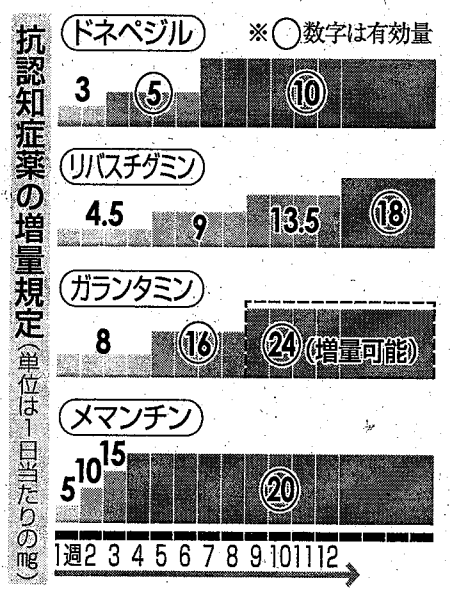
団体は一般社団法人「抗認知症薬の適量処方を実現する会」(代表・長尾和宏医師)。自民党の山東昭子参院議員が名誉会長に名を連ねる。医師の裁量で患者に合った用量で使用できるよう国などに要望する。

症状の進行を抑える抗認知症薬は4種類が承認されており、いずれも少量から始め、約1・7～4倍に増量するよう添付文書で規定されている。同会によると、規定量通りに投与すると興奮、暴力、歩行障害、飲み込み障害などが起き、介護の負担が増えることが多いという。逆に少量投与で改善する人もいる。

添付文書に「症状により適宜減量する」と記載されている製品もあるが、規定より少ない量で処方すると地域によっては診療報酬明細書(レセプト)の審査で認められない場合があり、効果的な少量投与を医師が控える状況だという。レセプトは都道府県ごとに審査機関が行っている。

同会は11月23日に東京都内で設立総会を開催し、副作用の実例を公表。副作用とみられる症例や診療報酬の請求が拒否された事例を収集し、厚生労働省や製薬企業などに、適切な処方ができるよう求めていく。

代表的な抗認知症薬「アリセプト」(一般名ドネペジル)を販売するエーザイは「臨床試験に基づき添付文書にある通りの用法用量で厚労省から承認されている。少量投与の有効性を裏付ける科学的根拠はないが、医師の判断で減量できると考えている。診療報酬の審査にコメントできる立場にはない」としている。



クリック

抗認知症薬　認知症の進行を抑制する薬で、国内では一般名ドネペジル、リバスチグミン、ガランタミン、メマンチンが承認されている。いずれも、吐き気などの副作用を防ぐため少量で始め有効量まで増量する使用規定となっている。例えば、アルツハイマー病などに適応するドネペジルは1日1回3ミリグラムから始め1～2週間後に5ミリグラムまで増量。高度のアルツハイマー病とレビー小体型認知症では、さらに4週間以上経過して10ミリグラムまで増量するとされている。

少量、中止で改善例も

「認知症の薬を患者の状態に合わせて使わせてほしい」。認知症医療に携わる医師らが団体を結成して現行の投薬規定に反発する声を上げた。規定量で症状が悪化したり、少量投与で良好な状態が続いていたり、患者の経過はさまざまだ。診療報酬の請求が認められず、約400万円もの損失を被った医師もいる。

埼玉県に住む82歳女性は2年前にアルツハイマー病と診断され、抗認知症薬ドネペジル5ミリグラムを処方された。まもなく興奮しやすくなり、知らない男に暴行されるという妄想が頻繁に現れるようになった。庭で何かに取りつかれたように草むしりするなど、人柄が変わったようになった。

別の病院の医師の指示でドネペジルをいったん中止したところ、妄想は減り、穏やかになってきたという。

同居の娘(54)は「以前は怒りっぽくてすぐけんかになった。今は落ち着いてきて、本来のお母さんに戻ったようだ」と話す。

副作用があったケースではないが、同県内の84歳男性は70代後半に「誰かが投光器で家の中を照らしている」との幻視に悩まされた。記憶力も落ち、レビー小体型認知症と診断された。処方されているドネペジルは規定量の半分の2・5ミリグラム。

「医師の裁量認められず」

それでもこの7年間幻視の再発はなく、日常生活も自分でこなし、夫婦で穏やかに暮らしている。

主治医として2人を診る池袋病院(同県川越市)の平川亘副院長は「抗認知症薬は規定量では悪化することが多い。規定量の半分でちょうどいい」と言う。

愛知県で認知症治療を専門に行う名古屋フォレストクリニックの河野和彦医師は昨年9～11月、抗認知症薬3種類で投与量を減らすなど、規定通りに処方しなかった患者266人分について請求を保険審査機関に拒否され、計394万円の損害が生じた。

河野医師は「副作用が出たので減量したと説明したが、カットされた。医師の裁量が認められていない」と訴える。

微妙なさじ加減必要

抗認知症薬の適量処方を実現する会の代表を務める長尾和宏・長尾クリニック(兵庫県尼崎市)院長の話　抗認知症薬を初期量から増量して怒りだしたり暴れだしたりする患者がたくさんいる。それなのに増量しないとレセプト査定で認められない。高齢者医療で使う薬で、一律に増量規定がある薬はほかにない。特に脳に作用する薬は微妙なさじ加減が必要なのに、個人差を認めない増量規定は、認知症医療の大きな問題になっている。

FIFA汚職

ブラッター会長聴取

スイス検察 背任、横領疑い

ブラッター氏は2011年2月、欧州サッカー連盟(UEFA)の会長選に共同)

ブラッター氏は2011年2月、欧州サッカー連盟(UEFA)の会長選に関しては、今春にもバルセロナとクラブ会長らが獲得費用を偽って脱税した容疑でスペインの裁判所に起訴された。

て、それを確かめるだろう」と声明を出し、プラティニまでの所得を過少申告し、6300万レアルを脱税したとしている。ネイマール選手に関しては、今春にもバルセロナとクラブ会長らが獲得費用を偽って脱税した容疑でスペインの裁判所に起訴された。

福島の高校で女子生徒自殺

部活トラブル一因か

福島県教育庁は25日夜、同県会津地方の県立高校で女子生徒が首をつって自殺しているのが19日に見つかったと明らかにした。教育庁は26日午後に記者会見し、女子生徒が所属する部活動の生徒を対象にアンケートした結果、部活内での人間関係のトラブルを指摘する回答が7人からあったと公表した。

女子生徒は18日、帰宅しなかったため、保護者が県警に捜索願を出した。捜索願を受け、教員らが校内を捜し、19日午前4時ごろ、女子トイレで首をつっている女子生徒を発見した。

18日の放課後、教室内で他の生徒7人と未提出だった学習課題に取り組む姿が確認されていた。県警から教育庁に入った連絡によると、女子生徒の死亡推定時刻は18日午後5時ごろ。

教育庁によると、女子生徒の遺族も部活動の人間関係のトラブルが自殺の一因ではないかと考えていることから、専門家を含む第三者委員会を立ち上げ、いじめの有無も含め事実関係を明らかにする方針。

死亡はサトウ・マミさん

米バス事故

【ロサンゼルス共同】米西部シアトルで24日、バスと観光用水陸両用車が衝突して留学生4人が死亡した事故で、地元公立大ノース・シアトル・カレッジは25日、死者の1人は日本人女

領事館によると、サトウさんとは別に4人の日本人が病院で治療を受けているが命に別条はない。また、事故直後に病院に運ばれたものの帰宅した日本人もいるという。

同カレッジによると、バスはカレッジが借り上げ、オリエンテーションの一環

■代理処罰で禁錮30年

長野県松本市で2003年に資男性が殺害され現金が奪われた事日本政府の代理処罰(国外犯処罰よる訴追)要請を受け、ブラジル殺人罪で起訴されたジュリアノエ・ソノダ被告(37)に対し、サンパ裁判所は25日までに禁錮30年の判い渡した。控訴が可能。

被告は公判で起訴内容を否認しが、判決は、被告が犯行を複数の打ち明けたとの証言があることな「被告の犯行を疑う余地は全くな指摘した。判決などによると、ソ告は03年7月10日、日本人の男=役が確定=と共謀し、松本市の貸全達守さん=当時(59)=方に侵入んの首を絞めて殺害し、現金約40奪った。(リオデジャネイロ共同

■16メートルクジラ死骸、処理難

北九州市沖の周防灘で体長16・クジラの死骸が見つかり、苅田港県苅田町)に10日間、係留されたなっている=写真。県は解体してめる方針だが、機材確保などに手ているためだ。腐敗が進めば体内ったガスで爆発する可能性があり10月初めに を終えた い だ。苅田海署や県によ マッコウク みられる。

水産庁のアルは、ク 死骸は土に り、漁業に影響がない海域に沈め る方法を示している。今回は腐っ ラを沖合まで引っ張るのは難しい れ、県は陸上での処理を決めた。 引き揚げ用機材の調達や埋め立て 選定が難航しているという。

■「パンに髪」偽クレーム常

ケーキやパンに髪の毛が入って どと電話でうそのクレームをつけ や商品をだまし取ったとして、兵 伊丹署は26日、詐欺の疑いで伊丹 町5の2の17、無職小野谷知子容 (45)を逮捕した。伊丹署によると、 電話には2～7月、鳥取など30都道 のケーキ店やパン店など、約12 に約7千回の電話をかけた記録が た。電話番号案内「104」には約 50回かけており、店を調べていた られる。

逮捕容疑は今年6～7月、大阪